NIE実践報告

1．タイトル：新聞を活用し、批判的思考力を育てる

2．学校名

静岡県立清水西高等学校

3．実践者名（代表者名）

野澤博文

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

公民（選択「新聞講読」）　19人

6．単元（本時の学習課題）名

出生前診断～生命の選別は許されるか～

7．目標(狙い)

人間の誕生から死に至るまでの様々な事象を通して（本単元では出生前診断）、「生命倫理」について考え、自らの意見・判断を表現していく。

8．評価の視点

批判的思考力を3段階に位置付け、ひとつひとつの学習活動の中でどこまで要求するのか明確にし、それぞれの学習活動ごとに点数化して評価する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「出生前診断」　4時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①出生前診断とは何か（1時間）
②出生前診断の功罪について考える（2時間）
③出生前診断の是非について考える（1時間）
④出生前診断（障害）に関するビデオを視聴する（1時間）

（留意点）
・出生前診断に関する実際の映像を見せることにより、理解を深めさせる。
・出生前診断の功罪・是非を考えていく上で、それぞれ双方の立場から意見が述べられている新聞記事を活用し、批判的思考力の育成につなげる。
・最終的に自らの意見や判断を、明確な根拠と一貫した論理の下、記述していくことを目標とする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

出生前診断の是非を考えていく中で、生命倫理について深く考え、明確な根拠と一貫した論理の下、自分の意見や判断を示すことができた生徒が多かった。

12．成果と課題

批判的思考力をどのように評価していくのかという点に関して、ひとつの事例を示すことができた。反面、生徒の行った自己評価とどのように連携させていくのかという点で課題が残った。